

# **土木請負工事の施工状況確認シート（案）**

平成 31 年 3 月

兵庫県 県土整備部

## <目次>

I.	はじめに	1
II. 施工状況確認シート		
1.	コンクリート構造物工事	2
2.	土工（切土、盛土、堤防等工事）	9
3.	護岸・根固め・水制工	11
4.	鋼橋上部工	21
5.	砂防堰堤工	25
6.	斜面対策工（地すべり対策工事）	37
7.	法面工①（種子吹付工、客土吹付工、植生基材吹付工）	40
8.	法面工②（コンクリート吹付工、モルタル吹付工）	42
9.	法面工③（現場打法枠工（プレキャスト法枠工含む））	44
10.	基礎工①（既製杭工（既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭））	46
11.	基礎工②（場所打ち杭工）	49
12.	基礎工③（深礎工）	51
13.	地盤改良工	53
14.	コンクリート橋上部工（P C・R C）	54
15.	トンネル工（NATM）	65

## 1. はじめに

### (1) 施工状況確認シートの目的

- ・「施工状況確認シート」（以下、「本シート」という。）は、土木工事共通仕様書等に定められた、土木請負工事の施工段階における確認項目を整理している。
- ・本シートの活用は、以下の取組み効果に繋がると考えている。
  - ① 監督員に対する、施工段階における確認項目の再周知
  - ② 工事実施状況等の現場確認の徹底
  - ③ 公共工事の品質確保の向上

### (2) 出典

- ・本シートの確認項目に、出典元を記載している（略称は以下のとおり）。
  - 共：土木工事共通仕様書（兵庫県）
  - 管：土木工事施工管理基準（兵庫県）
  - 必携：土木請負工事必携（兵庫県）
  - コ示：コンクリート標準示方書【施工編】（土木学会）
  - 道支：道路橋支承便覧（日本道路協会）
  - 自明：出典は明らかでないが自ずと明白なこと

# 施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員	
1. コンクリート構造物工事		確認ボイント		時期		確認項目	
						上段 : 日付・チェック欄	
						下段 : コメント	
						備考	
準備工	コンクリートの配合試験及び試験練習を行っており、コンクリートの品質（強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等）が確認できる。	打設前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。（共1-5）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		打設前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ちちいることが確認できる。（共1-57）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		打設前	JISマーク表示されたレディーミックスコンクリートを用い場合計画書及びレディーミックスコンクリート納入書を整備及び保管していることが確認できる。（共1-49）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		打設前	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する場合は、品質管理データが確認できる他の公共工事の示方配合表について監督員の確認を得ていることが確認できる。（共1-52）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塙化物のイオン量、圧縮強度、配合（単位水量及び水セメント比）等の所要の仕様を満足する示方配合表により監督員の確認を得ていることが確認できる。（共1-49）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		打設前	水セメント比（W/C）が、鉄筋コンクリート55%以下無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塙化物量（C.L.）が、許容塙化物量0.30kg/m <sup>3</sup> 以下となることなどが確認できる。（共1-47・52）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
掘削・床付工	躯体工の掘削・床付等において、施工基面の支持力が均等となるよう、かつ、不陸が無いよう仕上げていることが確認できる。	施工時	躯体工の基礎底面に不陸が無く、平滑に仕上げている。また、構造接合部や狭い箇所の締固めをタシパ・振動ローラ等の小型締固め機械により締め固めを行っていることが確認できる。（共1-35・3-14）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		施工時	掘削完了後、基礎地盤の支持力を確認を行っていることが確認できる。（共1-42）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
型枠・支保工	コンクリート打ち込み中の型枠・支保工の管理が適切であることが確認できる。	施工時	コンクリート打ち込み前および打ち込み中に、型枠及び支保工の不具合の有無を適切に管理していることが確認できる。（共3-165）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

型枠はらみ、モルタルの漏れ、移動、傾き、沈下、接着部の緩みなどに注意する。支保工の移動、傾き、沈下などに注意する。

# 施工状況確認シート

工事名 :	工期 :	年 月 日 ~ 年 月
主任監督員		

## 1. コンクリート構造物工事

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			下段 : コメント			備考
				/	/	/	/	/	/	
鉄筋工 (受入・貯蔵)	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。 鉄筋の貯蔵が適切に行われていることが確認できる。	施工時	工事に使用した材料の品質を証明する、試験成績表、性能試験結果、ミルシート等の品質規格証明書を受注者の責任において整備、保管していることが確認できる。(共2-3)	/	/	/	/	/	/	搬入した鉄筋に付いているダグに記載されている「溶鋼番号」は、品質証明書(じめいしょ)に記載されているそれと一致している。
		施工時	屋外に貯蔵する場合は、枕木・盤木等を適切に配置し鉄筋を直接地表に置くことを避け、雨水等の侵入を防ぐ等で適切な覆いをしていることが確認できる。(共1-61)	/	/	/	/	/	/	
		施工時	現場加工においては、鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する時は、既往の事績を調査し、現地において試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確かめたうえで施工している)(共1-61)	/	/	/	/	/	/	
		施工時	設計図書に示されていない鋼材等(組立用鉄筋や金網、配管等)を配置する場合は、その鋼材等についても所定のかぶりを確保し、かつその鋼材等と他の鉄筋とのあきを粗骨材の最大寸法の4/3以上としていることが確認できる。(共1-62)	/	/	/	/	/	/	
		施工時	鉄筋の重ね継手を行う場合は、設計図書に示す長さを重ね合わせて、直径 0.8mm 以上の中止鉄線で数ヶ所緊結していることが確認できる。(共1-63)	/	/	/	/	/	/	
鉄筋工 (加工・組立)	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	設計図書に明示した場合を除き、継手を同一断面に集めていないことが確認できる。(共1-63)	/	/	/	/	/	/	
		施工時	将来の継ぎたしのために構造物から鉄筋を露出しごく場合には、損傷、腐食等をうけないようにこれを保護していることが確認できる。(共1-63)	/	/	/	/	/	/	
		施工時	契約図面に定めた位置に、鉄筋を配置し、コンクリート打設中に動かないよう十分堅固に組み立てていることが確認できる。(共1-62)	/	/	/	/	/	/	鉄筋の組立図により事前に配筋精度を確認していく。

# 施工状況確認シート

<p style="margin: 0;">工事名 :</p> <p style="margin: 0;">工期 :</p> <p style="margin: 0;">年   月   日 ~ 年   月   日</p>	<p style="margin: 0;">主任監督員</p>
--	---------------------------------

## 1. コンクリート構造物工事

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			備考
				/□	/□	/□	
鉄筋工 (加工・組立)	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	鉄筋の交点の要所を、直径 0.8mm 以上の大まし鉄線、またはクリップで緊結し、鉄筋が移動しないようにしていることが確認できること。(共1-62)	/□	/□	/□	/□ /□ /□
コンクリート打設までにさび、どちら、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。	施工時	鉄筋組立て前及び組み立て後コンクリートを打ち込む前にこれを清掃し、表面に浮き鏽、どろ、油、ペンキ等有害な物質が付着していないか、コンクリート打設前に鉄筋の位置のずれがないことが確認できる。(共1-62・63)	/□	/□	/□	/□ /□ /□	
鉄筋工 (スパン)	スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	スペーサーを、構造物の側面については 1 mあたり 2 個以上、構造物の底面については 1 mあたり 4 個以上設置し、鉄筋の所定のかぶりを確保していることが確認できる。(共1-62)	/□	/□	/□	/□ /□ /□
鉄筋工 (圧接)	圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。	施工前	スペーサーについてはコンクリート製あるいはモルタル製で本体コンクリートと同等以上の品質を有するものを使用していることが確認できる。(共1-62)	/□	/□	/□	/□ /□ /□
コンクリート受入	コンクリート受入時に必要な試験を実施しておらず、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	ガス圧接は、JIS Z 3881 (ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準) に定められた試験のうち、その作業に該当する試験の技量を有する技術者本人が行っていることが確認できる。(共1-63)	/□	/□	/□	/□ /□ /□
			自動ガス圧接装置を取り扱う者は、JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に規定する棒鋼を酸素・アセチレン炎により圧接する技量を有する技術者本人が行っていることが確認できる。(共1-64)	/□	/□	/□	/□ /□ /□
			コンクリートの品質を確かめるための検査を JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) により実施しているか、生産者等に検査のための試験を代行していることが確認できる。(共1-52)	/□	/□	/□	/□ /□ /□

施工状況確認シート

工事名 :	工期 :		
	年	月	日
施工状況確認シート			
主任監督員			

# 施工状況確認シート

工事名 :			工期 :			年 月 日 ~ 年 月	
<b>1. コンクリート構造物工事</b>							
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目		上段 : 日付・チェック欄	下段 : コメント	備考
コンクリート 打設	施工時	練混せから打ち終わるまでの時間は、原則として外気温が25℃を超えない場合で1.5時間、25℃以下の場合は2時間を超えないことが確認できる。(共1-56)	<input type="checkbox"/>				
		コンクリートの打込みを日平均気温が4℃を超える25℃以下の範囲に予想されるとときに実施していることが確認できる。(共1-56)	<input type="checkbox"/>				
		コンクリートの打設作業に際しては、あらかじめ打設計画書を作成し、適切な高さに設定してこれに基づき打設作業を行っていることが確認できる。(共1-57)	<input type="checkbox"/>				
		シート、ポンプ配管、バケット、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。(共1-57)	<input type="checkbox"/>				
	打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるとときは、暑中コンクリートとしての施工を行つており、打ち込み時のコンクリート温度は35℃以下であることが確認できる。(共1-66)	<input type="checkbox"/>				
		【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるとときは、寒中コンクリートとしての施工を行つており、打ち込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸法、気象条件等を考慮して、5~20℃の範囲に保つていることが確認できる。(共1-67)	<input type="checkbox"/>				
		許容打ち重ね時間隔が、外気温が25℃を越える場合は2.0時間以内となっていることが確認できる。(コ示-118)	<input type="checkbox"/>				
		許容打ち重ね時間隔が、外気温が25℃以下の場合は2.5時間以内となっていることが確認できる。(コ示-118)	<input type="checkbox"/>				

# 施工状況確認シート

工事名：

工期：

年 月 日 ~ 年 月

主任監督員
-------

## 1. コンクリート構造物工事

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄	下段：コメント	備考
コンクリート打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、バイブレータ間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。(コ示-122)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □	これまでの施工実績に基づき、1箇所あたりの振動時間は5~15秒とする。	
コンクリート打設(打継ぎ)	コンクリートの打設前に打ち継ぎ目処理を行つて、施工を適切に行っている。	施工時	コンクリートを2層以上に分けて打設する場合、バイブルーターを下層のコンクリート中に10cm程度挿入し、上層と下層が一体となるように入念に締め固めていることが確認できる。(共1-58)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		
コンクリート打設(打継ぎ)	コンクリートの打設前に打ち継ぎ目処理を行つて、施工を適切に行っている。	施工時	硬化したコンクリートに、新コンクリートを打継ぐ場合は、その打込み前に型枠をしめ直し、硬化したコンクリートの表面のレイタス、緩んだ骨材粒、品質の悪いコンクリート、雑物などを取り除き吸水させていることが確認できる。(共1-59)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		
コンクリートの養生	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	スラブと一体となるハンチは、床組みと連続してコンクリートを打設していることが確認できる。(床組みと一体になった柱、壁の打継目)施工が適切であることが確認できる。(共1-59)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		
コンクリートの養生	コンクリートの表面を荒らさないで作業で施工が適切であることが確認できる。(共1-60)	施工時	コンクリートの表面を荒らさないように作業で施工程度に硬化した後に、下表に示す期間を標準に、露出面を十分な温潤状態に保つていることが確認できる。(共1-60)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □	その他のセメントを使用する場合や工事の期間によって施工方法等を定める場合には、構造物の種類、位置、試験等を考慮し、実験によって確認した上で決める。	
			【暑中コンクリート】特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日光・風雨を防ぐため必要な処置を行つていることが確認できる。(コ示-174)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □	散水、シートによる覆い等による適切な処置が必要。	
			【暑中コンクリート】特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日光・風雨を防ぐため必要な処置を行つていることが確認できる。(コ示-174)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		

# 施工状況確認シート

工事名：

工期：

年 月 日 ~ 年 月

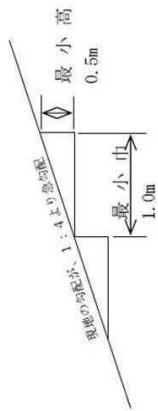
主任監督員
-------

## 1. コンクリート構造物工事

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄			下段：コメント			備考
				/□	/□	/□	/□	/□	/□	
コンクリート 養生	コンクリートの養生 が、設計図書の仕様 を満足していること が確認できる。	施工時	【寒中コンクリート】 打ち込まれたコンクリートは露出面が外気 に長時間さらさることのないように打設後直ちにシート等で養生していることが確 認できる。 (コ示-165)	/□	/□	/□	/□	/□	/□	打込後ただちに シートその他適切 な材料で表面を覆ぐ い、特に風を防ぐ ことが重要。
		施工前	型枠・支保工の取外しの時期及び順序について、設計図書に定められた場合に、配合、強度管理、打設条件等を考慮して、取外しの時期及び順序の計画を施工計画書に記載していることが確認できる。 (共1-65)	/□	/□	/□	/□	/□	/□	コンクリート 強度の判定 は、型枠内に 打ち込んだコンクリートと 同じ状態で養 生した供試体 の圧縮強度によ る。
		脱型時	コンクリートがその自重及び施工中に加わる荷重を受けられるのに必要な強度に達するまで、型枠・支保を取り外していいことが確認できる。 (共1-65)	/□	/□	/□	/□	/□	/□	コンクリート表 面から2.5cmの 間にあらボル ト、棒鋼等の部 分は注意が必要
		脱型時	型枠の組立に使用した縫付け材の穴及び壁 つなぎの穴を、本体コンクリートと同等以上 の品質を有するモルタル等で補修していく ことが確認できる。 (共1-65)	/□	/□	/□	/□	/□	/□	コンクリート表 面から2.5cmの 間にあらボル ト、棒鋼等の部 分は注意が必要
		脱型時	型枠・支保工の取り外し前に、構造物と同じ状態で養生したコンクリート供試体の圧縮強度を確認し、取り外しを行っていることが確認できる。 (共1-65)	/□	/□	/□	/□	/□	/□	コンクリート表 面から2.5cmの 間にあらボル ト、棒鋼等の部 分は注意が必要
		脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試 体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 (共1-65)	/□	/□	/□	/□	/□	/□	載荷する場合 は、コンクリー トの圧縮強度をよ り正確に計算する 元に確認する
		脱型時	型枠及び支保工の取 外し後の管理が適 切であることが確認 できる。	/□	/□	/□	/□	/□	/□	載荷する場合 は、コンクリー トの損傷を受けないよ うにしているこ とが確認できる。 (コ示-128)

## 施工状況確認シート

工事名 :												
工期 : 年 月 日 ~ 年 月 日												
主任監督員												
<b>2. 土工（切土、盛土、堤防等工事）</b>												
施工フロー	確認ポイント			時期	確認項目			上段：日付・チェック欄			下段：コメント	備考
	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。（共1-5）		/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □							
準備工	建設発生土の処理及び運搬計画は適切であることが確認できる。	施工前	建設発生土の処理方法及び運搬路が施工計画書に適切に明示されていることが確認できる。（共1-13）	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □								
	伐開除根作業が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	伐開除根作業範囲が設計図書に示されていることが確認できる。（共1-33）	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □								
	盛土材の管理は適切であることが確認できる。	施工時	盛土材料に石が混入する場合に、石が一ヶ所に集まっていることが確認できる。（共1-35）	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □								
盛土 地盤処理	雨水による崩壊が起ころうないように、排水対策を実施していることが確認できる。	施工時	盛土工、路床盛土工の作業終了時までの横断勾配を設けており、平坦に締固め、排水が良好に行われるようになっていることが確認できる。（共1-35・42・44）	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □								
	段切りを行っていること基づき行っていることが確認できる。	施工時	1:4より急な勾配を有する地盤上に盛土を行う場合には、特に指示する場合を除き、段切を行って、盛土と現地盤の密着を図り、滑動を防止していることが確認できる。（共1-34・43）	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □								



## 施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員							
2. 土工（切土、盛土、堤防等工事）		確認ポイント		時期		確認項目		上段：日付・チェック欄		下段：コメント		備考	
施工フロー	確認ポイント	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□		
盛土地盤処理	置換えたり、掘削面以下を乱さないよう施工していることが確認できる。	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□		
	締固めが設計図書に定めた条件を満足していることが確認できる。												
	一層あたりのまさ出しありを管理していることが確認できる。	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□		
まさきだし締固め	構造物周辺の締固められた条件で行っていることが確認できる。	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□		
	C B R 試験などの品質管理に必要な試験を行っていることが確認できる。	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□		
法面仕上げ	法面上に有害な亀裂がないことが確認できる。（自明）	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□		
	土羽土の土質が設計図書を満足していることが確認できる。	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□		
	芝付け及び種子吹付が定められた条件で行っていることが確認できる。（共2-32）	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	施工時	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□	/□ /□ /□ /□ /□ /□ /□ /□		

## 施工状況確認シート

工事名：

工期：

年 月 日 ~ 年 月

主任監督員
-------

### 3. 護岸・根固め・水制工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄			備考
				/	/	/	
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	/	/	/	/ / / /
	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる	施工時	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。(自明)	/	/	/	/ / /
基礎工 (作業土工)	基礎工において掘り過ぎがなく施工していることが確認できる	施工時	床付けの仕上がり面においては、地山を乱さないように施工していることが確認できる。(共3-14)	/	/	/	/ / /
	施工にあたつて、床堀箇所の湧水及び滲水等は排除して施工していることが確認できる	施工時	床付け箇所の湧水及び滲水などは、ポンプあるいは排水溝を設けるなどして排除していることが確認できる。(共3-14)	/	/	/	/ / /
基礎工 (基礎碎石 敷均し)	基礎碎石の締固め状況が適切であることが確認できる	施工時	切込砂利、碎石基礎工、割ぐり石基礎工の施工においては、床掘り完了後(割ぐり石基礎には割ぐり石に切込砂利、碎石などの間隙充てん材を加え)締固めながら仕上げていることが確認できる。(共3-49)	/	/	/	/ / /
基礎工 (フレキサット 基礎据付)	フレキサット基礎の設置において、沈下等の影響がないことが確認できる	施工時	沈下等による法覆工の安定に影響が生じていないことが確認できる。(共3-49)	/	/	/	/ / /
コンクリート打設	コンクリートの打設が適切であることが確認できる	施工時	コンクリート施工に際して、水中打ち込みを行っていないことが確認できる。(共3-50)	/	/	/	/ / /
作業土工 (埋戻し)	埋め戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	埋戻しの材料は設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(自明)	/	/	/	/ /

## 施工状況確認シート

工事名：

三

月 日 年

主任監督員

施工フロー		確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付 - チェック欄	下段：コメント	備考
作業土工 (埋戻し)	埋め戻しが適切であることが確認できる	施工時	水密性を確保しなければならない箇所の埋戻し材にあたり、埋戻し材が集中していき一ヶ所に施工していることが確認できる。(共3-120)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
		施工時	埋戻しを行ったり埋設構造物がある場合は、偏土圧が作用するようには埋戻していることが確認できる。(共3-120)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
鋼矢板資材 受入	搬入された鋼矢板は所要の規格を満足していることが確認できる	施工前	鋼矢板の品質が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(共2-41)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
		施工時	鋼矢板の運搬、保管にあたっては、矢板の表面、維手、開先部分などに損傷を与えないようにはじめ、変形を生じないようにしていきることが確認できる。(共3-15)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
鋼矢板 打込	打込み方法および打込み精度が適切であることが確認できる	施工時	矢板の打込みにあたり、導材を設置するなどして、ぶれ、よじれ、倒れを防止し、また隣接矢板が共下りしないよう施工していることが確認できる。(共3-15)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
		施工時	ウォータージェットを用いて鋼矢板を施工する場合は、最後の打止めを落錐等で貫入させ、落ち着かせていることが確認できる。(共3-120)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
杭継ぎ	継ぎ杭の施工方法が適切であることが確認できる	施工時	鋼矢板の根入れしが十分であることが確認できる	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
		施工時	現場継手を溶接継手による場合については、接続溶接継手とし、現場溶接に際しては溶接工の選定及び溶接の管理、指導、検査及び記録を行いうる溶接施工管理者を常駐させていることが確認できる。(共3-62)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			

## 施工状況確認シート

工事名：

期工

月 日 年

主任監督員

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目						備考
			上段：日付・チェック欄			下段：コメント			
溶接工の技量が適切であることが確認できる	溶接板の溶接作業については、所要な技術を有する者(※)が行っていることが確認できる。  ※ JIS Z 3801(手溶接技術検定における試験方法及び判定基準)に定められた試験のうち、その作業に該当する試験(またはこれと同等以上の検定試験)に合格した者に行わせている。	施工時	/ <input type="checkbox"/>	/ <input type="checkbox"/>					
溶接作業環境が適切である	降雪雨時、強風時に露天で鋼管杭の溶接作業を行っていないことが確認できる。(共3-62)	施工時	/ <input type="checkbox"/>	/ <input type="checkbox"/>					
溶接作業環境が適切である	作業が可能なように、遮へいした場合等には、気温が5℃以下の時は溶接を行っていないことが確認できる。(共3-62)	施工時	/ <input type="checkbox"/>	/ <input type="checkbox"/>					
母材に不純物が付着していないことが確認できる	鋼矢板の溶接部の表面のさび、ごみ、泥土等の有害な付着物をワイヤブラシ等でみがいて清掃し、乾燥させていることが確認できる。(共3-62)	施工時	/ <input type="checkbox"/>	/ <input type="checkbox"/>					
指定材料の品質が証明書類で確認できる	設計図書において指定された材料について、見本又は品質を証明する資料を提出していることが確認できる。(共2-3)	施工前	/ <input type="checkbox"/>	/ <input type="checkbox"/>					
コンクリートブロックの品質が適切である	コンクリートブロックの品質が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(自明)	施工前	/ <input type="checkbox"/>	/ <input type="checkbox"/>					
石積張工における大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(自明)	石積張工における大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	/ <input type="checkbox"/>	/ <input type="checkbox"/>					

## 施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年   月   日 ~   年   月
主任監督員	

### 3. 護岸・根固め・水制工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			備考
				上段 : 日付	下段 : コメント	備考	
遮水・止水シート張り	遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	法面を平滑に仕上げてから遮水シートを布設していることが確認できる。(共6-3)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
	シートの重ね幅は15cm以上、端部の取付部は20cm以上で設置していることが確認できる。(共6-3)	施工時	シートの重ね幅は15cm以上、端部の取付部は20cm以上で設置していることが確認できる。	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
裏込材及び胴込めコンクリートの仕様が生じないよう十分に行っていること	裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。	施工前	裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを空隙が生じないよう十分に行っていること	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる	護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる	施工前	端末部及び曲線部等で間隙が生じる場合は、半プロックを用いるものとし、半プロックの設置が難しい場合はコンクリート等を用いて施工していることが確認できる。(共3-67)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
石・コンクリートブロック積張工	石・コンクリートブロック積張工	施工時	コンクリートブロック工の合端を合わせ兎かいしを用いて固定し、脇込めコンクリートを充填した後に締固め、合端付近に空隙が生じないようにしていることが確認できる。(共3-66)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
		施工時	プレキヤストコンクリート板を使用するコンクリートブロック張りにおいて、ブロックの目地詰めには、空隙を生じないように目地材を充てんし、表面を平滑に仕上げていることが確認できる。(共3-67)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			
		施工時	緑化ブロック、石積張、法枠、かごマット等における材料のかみ合せ又は連結が、裏込材の吸い出しがないよう行っていることが確認できる。(共3-67)	緑化ブロック、石積張、法枠、かごマット等における材料のかみ合せ又は連結が、裏込材の吸い出しがないよう行っていることが確認できる。	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		
覆土工	施工が適切であることが確認できる	施工前	覆土に用いる材料の品質が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(自明)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □			

## 施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月		主任監督員							
施工フロー		確認ポイント		時期		確認項目		上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント		備考	
覆土工	施工が適切であること	施工時	厚さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(自明)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
植生工	植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	芝付け及び種子吹付を行つてあることが確認できる。(共2-44)	/	/	/	/	/	/	/	/	材料の種類、品質、配合等について確認	
かごマット工	カゴの組み立ておよび栗石の投入状況が適切であることが確認できる。	施工時	かごマットの中詰用ぐる石には、かごの厚さが30cmの場合は5cm~15cm、かごの厚さが30cmの場合には割り石を使用していることが確認できる。(共3-37)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
根固め工	材料のかみ合わせ等が適切であることが確認できる。	施工時	かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸い出しがないよう行っていることが確認できる。(共3-67)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
根固めブロック工	根固めブロックの型枠脱型が適切であることが確認できる。	施工時	根固める荷重に耐えられる強度に達するまで行つていることが確認できる。(共3-27)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
コンクリートブロック等を損傷なく施工していることが確認できる。	施工時	根固めブロックの運搬及び据付けに損傷を与えないように施工していることが確認できる。(共3-27)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
捨石工	根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	根固めブロックを連結する場合、連結ナットが抜けないようネジ山をつぶしていることが確認できる。(共3-27)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		施工時	根固めブロックの乱積施工は、噛み合わせが良く、不安定な状態が生じていないことが確認できる。(共3-27)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		施工時	捨石基礎の施工にあたっては、大小の石でかみ合っていることが確認できる。(共3-28)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

## 施工状況確認シート

工事名 :			工期 :			年 月 日 ~ 年 月 日	
3. 護岸・根固め・水制工							
施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目		上段：日付・チェック欄	下段：コメント	備考
コンクリートの配合 試験及び試験練習を行っており、コンクリートの品質（強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等）が確認できる。  コンクリート工準備工	コンクリート打ち込み中の型枠・支保工があること。	打設前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち重ね時間が、型枠・支保工の取り外し時期が明記されていることが確認できる。（共1-57）	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>			
		打設前	JISマーク表示されたレディーミックスコンクリートを用いる場合は、工場が発行するレディーミックスコンクリート納入書を整備及 合計画書及びレディーミックスコンクリートを用いて監督員の確認を得ていることが確認できる。（共1-49）	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>			
		打設前	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する他の公共工事の示方配合表について監督員の確認を得ていることが確認できる。（共1-52）	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>			
		打設前	試験練習を行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合（単位水量及び水セメント比）等の所要の仕様を満足することが確認できる。監督員の確認を得ていることが確認できる。（共1-49）	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>			
		打設前	水セメント比（W/C）が、鉄筋コンクリート55%以下、無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塩化物量（C L -）が、許容塩化物量0.30kg/m <sup>3</sup> 以下となることを確認していることが確認できる。（共1-47・52）	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>			
		型枠	コンクリート打ち込み前に型枠及び支保工の不具合の有無を適切に管理していることが確認できる。（共3-165）	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>			
コンクリート受入	コンクリート受入時に必要な試験を実施して必 おり、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/>		

## 施工状況確認シート

工事名：

• 8

月年日月

### 3. 護岸・根固め・水制工

## 施工状況確認シート

工事名 :			
工期 :		年	月
		～	年
施工状況確認シート			
主任監督員			

施工フロー		確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄	下段：コメント	備考
施工時				練混ぜながら打ち終わるまでの時間は、原則として外気温が25°Cを超える場合で1.5時間、25°C以下の場合は2時間を超えないことが確認できる。(共1-56)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		
施工時				コングリートの打込みを日平均気温が4°Cを超えて25°C以下の範囲に予想されるときに実施していることが確認できる。(共1-56)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □	日平均気温が度以下時は寒中コンクリートとして、25度を超えるときは暑中コンクリートとして取り扱う。	
施工時				コングリートの打設作業に際しては、あらかじめ打設計画書を作成し、適切な高さに設定してこれに基づき打設作業を行っていることが確認できる。(共1-57)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		
施工時				シート、ポンプ配管、バケット、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。(共1-57)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		
施工時				【暑中コンクリート】日平均気温が25°Cを超えることが予想されるとおり、打ち込み時のコンクリート温度は35°C以下であることが確認できる。(共1-66)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □	日平均気温とは、1時から24時までの毎正時24回の観測値の平均をいう。暑中コンクリートの適用に関する判断は注文者のヒアリングにて確認を行う。	
打設前				【寒中コンクリート】日平均気温が4°C以下になることが予想されることは、寒中コンクリートとしての施工を行っており、打込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸法、気象条件等を考慮して、5～20°Cの範囲に保つていることが確認できる。(共1-67)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □		
施工時				許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25°Cを越える場合は2.0時間以内となっていることが確認できる。(ユ示-118)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすい場合にコールドジョイントが生じやすいため注意する。	
施工時				許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25°C以下の場合には2.5時間以内となっていることが確認できる。(ユ示-118)	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。	

## 施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

### 3. 護岸・根固め・水制工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄			下段：コメント			備考
				/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
コンクリート打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、バイブレータ間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。(コ示-122)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	これまでの施工実績に基づき、1箇所あたりの振動時間は5~15秒とする。
コンクリート打設	コンクリートを2層以上に分けて打設する場合、バイブルーターを下層のコンクリート中に10cm程度挿入し、上層と下層が一体となるように入念に締め固めていることが確認できる。(共1-58)	施工時	コンクリートの表面を荒らさないで作業でこぎる程度に硬化した後に、下表に示す期間を標準に、露出面を十分な湿潤状態に保つことができる。 (共1-60)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	その他のセメントを使用する場合や、施工の抑止によって養生方法等によって養生時間を定めめた場合には、構造物の種類、位置、気象条件等を考慮し、試験によって確認した上で決定する。
コンクリート養生	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	【暑中コンクリート】特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日光・風雨を防ぐために必要な処置を行っていることが確認できる。(コ示-174)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	散水、シートによる覆い等による適切な処置が必要。
コンクリート養生	打ち込まれたコンクリートは露出面が外気打設に長時間さらされることのないように打設後直ちにシート等で養生していることが確認できる。(コ示-165)	施工時	【寒中コンクリート】打込後ただちにシートで表面を覆い、特に風を防べることが重要。	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	打込後ただちにシートで表面を覆い、特に風を防べることが重要。

## 施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年 月 日 ~ 年 月
主任監督員	

### 3. 護岸・根固め・水制工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			下段 : コメント			備考
				/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
		施工前	型枠・支保工の取外しの時期及び順序について、設計図書に定められていない場合は、配合、強度管理、打設条件等を考慮して、取外しの時期及び順序の計画面を施工計画書に記載していることが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	コンクリート強度の判定は、型枠内に打ち込んだコンクリートと同じ状態で養生した供試体の圧縮強度による。
		脱型時	コンクリートがその自重及び施工中に加わる荷重を受けるのに必要な強度に達するまで、型枠・支保を取外していいことが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
		脱型時	型枠の組立に使用した締付け材の穴及び壁つなぎの穴を、本体コンクリートと同等以上の品質を有するモルタル等で補修していくことが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	コンクリート表面から2.5cmの間にあるボルト、棒鋼等の部分は注意が必要。
		脱型時	型枠・支保工の取り外し前に、構造物と同じ状態で養生したコンクリート供試体の圧縮強度を確認し、取り外しを行っていることが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
		脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体と同一品であることが確認できる。(共1-65)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	載荷する場合は、コンクリートの圧縮強度を元に計算等により確認する。
		脱型時	型枠及び支保工を取外した直後に構造物へ載荷する場合は、構造物が有害なひび割れその他の損傷を受けないようにしていることが確認できる。(コ示-128)	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	

## 施工状況確認シート

工事名：

十一

月年月

施工工種		確認ポイント	時期	確認項目	上段：日付・チェック欄			下段：コメント			備考
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。(共1-5)	/	/	/	/	/	/	
	架設準備として下部工の検測を行っていることが確認できる。	施工前	施工前	受注者は、架設準備として下部工の橋座高及び支承間距離の検測を行い、その結果を監督員に提示していることが確認できる。(共6-28)	□	□	□	□	□	□	
	支承の据付けで、コンクリート面にチッピング及び仕上げ面に水切り勾配がついていることが確認できる。	施工時	施工時	脊座面はチッピングを行い、浮き骨材やゴミなどを取り除いていることが確認できる。(共10-128)	□	□	□	□	□	□	
	架設にあたって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。	施工時	施工時	架設にあたっては、架設時の部材の応力と変形等を十分検討し、上部工に対する悪影響が無いことが確認できる。(共10-37)	□	□	□	□	□	□	
	架設に用いる仮設及び架設用機材について、品質、性能が確保できることを確認している。	施工時	施工時	架設に用いる仮設及び架設用機材について、工事目的物の品質、性能が確保できることを有していることが確認できる。(共10-37)	□	□	□	□	□	□	
	ボルトの締付け確認について、トルク法による場合は、各ボルト群のトルク値として、トルクレンチによつて締付け確認を行っていることが確認できる。また、トルシア形高力ボルトの場合は、全数につきビンテールの切断の確認とマー킹ングによる外観確認を行っていることが確認できる。(共3-33)	施工時	施工時	締付け確認をボルト締付け後すみやかにしていることとが確認できる。(共3-33)	□	□	□	□	□	□	
鋼橋架設工	ボルトの締付け確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。	施工時	施工時	ボルトの締付け確認による場合は、各ボルト群の110%のボルト本数を標準として、トルクレンチによつて締付け確認を行っていることが確認できる。また、トルシア形高力ボルトの場合は、全数につきビンテールの切断の確認とマーキングングによる外観確認を行っていることが確認できる。(共3-33)	□	□	□	□	□	□	
	回転法及び耐力点法による場合は、全数についてマーキングによる外観確認を行っていることが確認できる。(共3-33)	施工時	施工時	回転法及び耐力点法による場合は、全数についてマーキングによる外観確認を行っていることが確認できる。(共3-33)	□	□	□	□	□	□	

## 施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年 月 日 ~ 年 月 日
主任監督員	

### 4. 鋼橋上部工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄		下段 : コメント	備考
				□	□		
鋼橋架設工	ボルトの締付け機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。	施工時	ボルトの締付け機、測量器具などの検定を現地施工に先立ち現地搬入直前に1回、搬入後はトルクレンチは1ヶ月毎にその他の機器は3ヶ月毎に点検を行い精度を確認していることが確認できる。(共3-31)	□	□	□	□
	高力ボルトの締め付けを、中心から外側に向かって行っていることが確認できる。	施工時	ボルトの締付けを、連結板の中央のボルトから順次端部ボルトに向かってを行い、2度締めを行っていることが確認できる。(共3-33)	□	□	□	□
	高力ボルトの品質が証明書類で確認できる。	施工時	予備締め後には締め忘れや共まわりを容易に確認できるようにボルトナット及び座金にマーキングを行なっていることが確認できる。(共3-33)	□	□	□	□
伸縮装置・検査踏み盤等取付工	伸縮装置の据付け方が適切であることが確認できる。	施工時	高力ボルトについて、品質を証明する書類があることが確認できる。(自明)	□	□	□	□
	現場塗装工	施工時	伸縮装置の据付けについては、施工時の気温を考慮し、設計時の標準温度で、橋と支承の相対位置が標準位置となることが確認できる。(共3-34)	□	□	□	□
現場塗装工	現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行なっていることが確認できる。	施工時	伸縮装置工の漏水防止の方法について、設計図書により行っていることが確認できる。(共3-34)	□	□	□	□
		施工時	被塗装面の素地調整状態を確認したうえで下塗りを施工していることが確認できる。(共3-41)	□	□	□	□
			天災その他の理由によりやむを得ず下塗りが遅れ、そのためさびが生じたときは再び素地調整を行い、塗装していることが確認できる。(共3-42)	□	□	□	□

主任監督員
-------

## 施工状況確認シート

工事名 :		工期 :		年 月 日 ~ 年 月	
施工フロー		確認ポイント		確認項目	
		現場塗装部のケレン及び膜厚管理を行うことを行つてきる。	施工時	塗料の塗り重ねにあたつて、先に塗布した塗料が乾燥（硬化）状態になつていることを確認したうえで行つていることが確認できることを確認する。（共3-21）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			施工時完成時	現場塗装終了後、塗膜厚検査を行い、塗膜厚測定記録を作成及び保管していることが確認できる。（共3-42）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
				塗布作業時の気温・湿度の制限が共通仕様書表3-2-11に示す場合は、塗装を行つていいことかが確認できる。（共3-40）	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4. 鋼橋上部工		上段：日付・チェック欄		下段：コメント	
					備考
現場塗装工					
			施工時	現場塗装において、温度、湿度等の確認を行つていることが確認できる。	

表3-2-11 塗装禁止条件

塗装の種類	気温 (°C)	湿度 (RH%)
長ばく形エッチングプライマー	5以下	85以上
無機シリカチップライマー	0以下	50以下
無機シリカチッヂヘイント	5以下	85以上
有機シリカチッヂヘイント	10以下	85以上
エボキシ樹脂塗料下塗	5以下	85以上
変性エボキシ樹脂塗料下塗	5以下	85以上
変性エボキシ樹脂塗料内面用	5以下	85以上
亜鉛めつき用エボキシ樹脂塗料下塗	5以下	85以上
弱溶剤形変性エボキシ樹脂塗料下塗	5以下	85以上
超厚膜形エボキシ樹脂塗料	5以下	85以上
エボキシ樹脂塗料下塗（低温用）	5以下、20以上	85以上
変性エボキシ樹脂塗料内面用（低温用）	10以下、30以上	85以上
無溶剤形変性エボキシ樹脂塗料	5以下、20以上	85以上
無溶剤形変性エボキシ樹脂塗料（低温用）	5以下	85以上
コンクリート塗装用エボキシ樹脂プライマー	5以下	85以上
ふっ素樹脂塗料用中塗	5以下	85以上
弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	5以下	85以上
コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗	0以下	85以上
コンクリート塗装用未転形ふっ素樹脂塗料上塗	0以下	85以上
鉛・クロムフリーさび止めペイント	5以下	85以上
長油性フル酸樹脂塗料中塗	5以下	85以上
長油性フル酸樹脂塗料上塗	5以下	85以上

## 施工状況確認シート

工事名 :	工期 :
	年   月   日 ~   年   月   日
主任監督員	

### 4. 鋼橋上部工

施工フロー	確認ポイント	時期	確認項目	上段 : 日付・チェック欄			備考
				下段 : コメント	□	□	
	床版打設にコンクリートボンプを使用する場合の施工は適切であることが確認できる。	施工時	コンクリート打込み作業にあたり、コンクリートボンプを使用する場合は下記により行っている。 ①ポンプ施工を理由にコンクリートの品質が安定するまで打設を行っていない。 ②吐出口におけるコンクリートの品質が直接パイプ等の荷重がかかるように足場等の対策を行っている。 ③配管打設する場合は、鉄筋に直接パイプ等の荷重がかかるないように足場等の対策を行っている。		□	□	□
	コンクリートの打継目の設定は適切であることが確認できる。	施工時	橋軸方向に平行な打継目は作っていないことが確認できる。(共3-165)		□	□	□
床版工	床版の出来形管理は適切であることが確認できる。	施工時	橋軸直角方向は、一直線状になるよう打込んでいることが確認できる。(共3-165)		□	□	□
	伸縮継手部の施工は適切であることが確認できる。	施工時	コンクリート打込みにあたっては、型枠支保工の設置状態を常に監視するとともに、所定の床版厚さ及び鉄筋配置の確保に努めていることが確認できる。(共3-165)		□	□	□
	橋梁用高欄工の施工は適切であることが確認できる。	施工時	鋼製伸縮継手フエースプレート下部に空隙が生じないように箱抜きを行い、無収縮モルタルにより充填していることが確認できる。(共3-165)		□	□	□
			橋梁上部工の支間の支保工をゆるめた後で、施工を行っていることが確認できる。(共10-39)		□	□	□